

## 「全国に誇れる・選ばれるまちづくり事業」の創出状況（22年2月現在）

## 1 新たに創出された取組（15事業）

No.	取組名	所管課	開始時期	選定理由	内容
1	宇都宮ブランド戦略の推進	政策審議室 (都市ブランド戦略室)	20年度	独自	<p>本市が、市民からは誇りを市外からは憧れを持ってもらうことで100年先も誇れるまちとなるために、独自の都市ブランド戦略“宇都宮プライド”を展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>宇都宮らしさを表現するユニークなフレーズ・ロゴマークを作成</u> ブランド・メッセージ:「住めば愉快だ 宇都宮」</li> <li>・ 情報発信拠点としてアンテナショップ「<u>宮カフェ</u>」を<u>市内中心商店街に設置</u>、<u>市民への情報発信に積極的に取り組む</u></li> <li>・ 「<u>宇都宮プライド創造ボランティア</u>」による<u>市民活動を独自に展開</u></li> </ul>
2	施設愛称によるプロスポーツ応援事業	地域政策室	21年度	独自	<p>本市で活動するプロスポーツクラブに対する市民の愛着と連帯感の醸成、および本市のブランド力向上を目指し、<u>市有施設にプロスポーツクラブ名を冠した独自の愛称をつける</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市サッカー場 栃木SC宇都宮フィールド</li> <li>・ 市体育館 ブレックスアリーナ宇都宮</li> </ul>
3	「自転車のまち 宇都宮」の推進	交通政策課	22年度	独自	<p>自転車を取り巻く環境や市民ニーズの多様化に対応するための計画「(仮称)自転車のまち推進計画」を策定し、自転車の活用に、<u>来街者等へのおもてなしの向上</u>、<u>まちなか活性化などを併せた、独自のコンセプトにより</u>、総合的な事業展開を図る相乗的な効果を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民間宿泊施設におけるレンタサイクルの導入（モデル事業）</li> <li>・ 自転車利用者の利便性向上施設の整備（モデル事業） など</li> </ul> <p>【22年度関連予算を計上】</p>
4	DV被害者の居場所の整備と自立支援事業の実施	男女共同参画課	21年度	独自先駆	<p>全国の市町村で唯一、<u>DV被害者の居場所を整備し</u>、民間支援団体との協働により、<u>被害者とその子どもの自立支援プログラムを実施</u>（平成21年7月～）</p>

5	宇都宮市重症障がい児(者)医療的ケア支援事業	障がい福祉課	20年度	先駆	重症障がい児(者)の日中活動の場の確保等のため、医療的ケアが必要な者を医療機関や看護師等配置の福祉施設などで一時的に預かる ・ <u>個人診療所と連携した事業実施</u> としては、中核市初の取組
6	市庁舎内授産品販売所「わく・わくショップU」の設置	障がい福祉課	21年度	先駆	障がい者の工賃水準向上や就労訓練の場の確保等を図るため、 <u>市の事業として</u> 、市庁舎内に、市内福祉施設で製作された授産品の販売コーナーを常設設置するとともに、販売支援員の配置や出店事業所の調整などを行うなど、 <u>総合的な支援を行う事業</u> としては、中核市初の取組
7	新たな二次救急医療体制の構築	保健所総務課 消防本部警防課	21年度	独自先駆	救急患者の症状に応じた適切な医療を提供するため、 <u>救急告示医療機関の連携を強化し、輪番制病院を支える本市独自の体制を構築、稼働</u> ・輪番制病院数を拡大(3病院→5病院) ・11救急告示医療機関を輪番制病院の協力病院等に位置付け、医療体制確保のための財政支援を実施 ・各救急医療機関の相互支援体制を強化 ・各救急医療機関の応需情報を統一、共有化
8	「宇都宮市生活環境保全推進計画」の策定	環境保全課	21年度	先駆	市民の良好な生活環境の確保を図るため、全国に先駆けて、生活環境保全計画を策定 ・ <u>全7公害と化学物質についての対策を盛り込む</u> ・ <u>施策事業ごとの活動目標やスケジュールを明示</u>
9	光化学スモッグ注意報発令時におけるFAX自動配信の実施	環境保全課	22年度	先駆	光化学スモッグ注意報について、 <u>県から受信した電子メールを自動的にFAX変換し、医療機関を含む52関係機関へ迅速に一斉配信するシステム</u> を、全国に先駆けて構築
10	文星芸術大学との産学連携による施策・事業の「見える化」	産業政策課	22年度	先駆	本市の施策・事業などについて市民に分かりやすく情報発信を行うため、文星芸術大学マンガ専攻学生の協力を得ながら、全国に先駆けて <u>漫画による紹介コーナー</u> を市HPに開設

11	平松本町第三地区における「 <u>地籍整備型土地区画整理事業</u> 」の実施	市街地整備課	22年度	先駆	全国の市町村で初めて、土地区画整理事業を柔軟に運用した「 <u>地籍整備型土地区画整理事業</u> 」を実施予定（22年度事業認可予定）【22年度関連予算を計上】
12	外国人児童生徒教育の推進	学校教育課	21年度	独自先駆	<p>全国に先駆けて、数値指標及び実施スケジュールを設定した総合的・計画的に在住外国人の教育を推進する「<u>外国人児童生徒教育推進計画</u>」を平成21年度策定。一人一人の日本語習得・学校生活への適応状況に応じた指導を充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国人児童生徒の居住地が市内に分散する市としては全国でも稀である「<u>小中学校への編入学希望者を対象とした『初期日本語指導教室』</u>」を、平成22年度より市独自に2カ所設置予定【22年度関連予算を計上】</li> <li>長期休業中の日本語指導について、市国際交流協会など関係団体と連携した、独自の習熟度に応じた段階的・系統的な指導体制を構築</li> <li>初期日本語指導教室への通級</li> <li>母語や日本語による日本語指導者の学校派遣</li> </ul>
13	スタンダードダイアリーの活用による学校と家庭の連携推進	学校教育課	20年度	独自先駆	<p>学校と家庭が共通の認識をもって児童生徒の育成に取り組むため、「スタンダードダイアリー」（“<u>学校教育スタンダード</u>”，“<u>宮っ子の誓い</u>”，<u>食育</u>などの内容を<u>一体化して掲載</u>）を作成し、児童生徒が毎日使用する連絡帳や生活ノートとして活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このようなノートを作成し、学校と家庭の連携強化を図る取組は、全国でも類を見ない取組</li> <li>平成21年度から<u>全児童・生徒に配付</u></li> </ul>
14	元気っ子健康体力チェック	学校健康課	21年度	独自	児童生徒の体力向上を図るため、全ての児童生徒を対象に、国の全国体力調査に併せて、本市独自に <u>体力テストと食を含めた生活習慣を分析し、活用</u>
15	スポーツ大会全国大会出場校応援団への助成	スポーツ振興課	21年度	独自	スポーツ大会の全国大会に出場する際、生徒による <u>応援団</u> を編成した市内の小中学校・高等学校を対象に、交通費等の一部補助を、本市独自に実施

## 2 これまでに創出され、さらに取組が進んだもの（6事業）

No.	取組名	所管課	開始時期	選定理由	内容
1	地域住民が主体となった地域内交通の実施	交通政策課	19年度	独自	<p>市内各地区において、地域住民が主体となった運行計画の検討、地元自治会・企業等の協賛金などにより、<u>地域実情に合わせた運行方式による独自性のある地域内交通</u>を運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清原地区（平成20年1月～） 「清原さきがけ号」 （乗合タクシーが、路線バス同様、決まった経路・停留所を決まった時間に通過する方式）</li> <li>・板戸地区（平成22年4月～） <u>「板戸のぞみ号」</u> （乗合タクシーが、予約に応じて自宅から地区内の目的地まで送迎するデマンド方式）</li> </ul> <p>【22年度関連予算を計上】</p>
2	妊産婦に対する支援の推進	子ども家庭課	21年度	トップ	<p><b>【特定不妊治療費助成金の拡充】</b> 中核市でトップクラス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国の助成制度に本市独自に上乗せ。</li> <li>・特定不妊治療（体外受精・顕微授精）費について、1回につき<u>上限25万円</u>まで助成（年2回、通算5年）</li> <li>・<u>一般不妊治療（人工授精）費</u>についても、<u>上限32,000円</u>まで助成（年1回、通算2年）</li> </ul> <p><b>【妊産婦医療費助成事業の拡充】</b> 中核市でトップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊産婦の健康支援と経済的負担軽減のため、妊娠から産後の体調不安定期（産褥期）までの医療費を助成 対象期間：母子健康手帳交付月～<u>出産月の翌々月</u>（期間を延長）</li> </ul>

3	障がい児発達支援の推進	子ども発達センター 教育センター 保育課	19年度	独自 先駆	<p><b>【子ども発達センター】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市独自に保健・福祉・教育・医療等が連携したネットワーク会議を設置し、総合的・継続的な発達支援を展開</li> <li>・医療的ケアの必要な重度障がい児に対するプール活動支援事業を通年で実施</li> <li>・22年度から、全国に先駆けて、<u>幼児期から就労まで長期的な視点</u>（通常は学齢期）で切れ目のない一貫した支援を提供するため、児童の個々の状態に応じた目標等を設定する「<u>個別の支援計画</u>」を策定し、支援を行う予定【22年度関連予算を計上】</li> </ul> <p><b>【なかよしクラブ事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国に先駆け、<u>保育園併設専用施設</u>において、在宅の障がい傾向児及びその保護者に対し、相談・助言、遊びを通じた子育て支援、及び交流の場を提供（平成22年1月現在 3,817組が利用）</li> </ul>
4	もったいない運動の推進	環境政策課 観光交流課	17年度	独自 先駆	<p>「もったいないうつつのみや運動」「おもてなし運動」を2本柱として、本市独自のもったいない運動を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・19、20年度は全国大会を開催し、もったいない運動を全国・世界に発信</li> <li>・<u>市民主体の「もったいない運動市民会議」の設立</u></li> <li>・市民会議が実施主体となって「もったいないフェア」を開催</li> <li>・市民会議と市の協働により、運動の行動指針となる「<u>もったいないの約束</u>」や、<u>もったいないの日</u>（月間）を制定</li> </ul>
5	「お弁当の日」の実施	学校健康課	20年度	独自 先駆	<p>全国に先駆けて、食育推進事業として全小中学校で「お弁当の日」を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年に応じた独自のねらいを設定、献立立案等から親子のふれあいを促進</li> <li>・21年度は、<u>中学生による「とっておきのお弁当コンクール」の大賞作品を、民間企業と連携して初めて商品化</u>、市庁舎レストラン等で限定販売を実施</li> </ul>
6	ジャパンカップサイクルロードレースの開催	スポーツ振興課	4年度	独自 トップ	<p>日本で唯一、世界トップクラスのプロ選手が集う、アジア最高位（オークラス）の国際自転車競技連合公認大会を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年度は、これまでのレースに加え、日本で初となる、<u>トッププロによる中心市街地の大通り周回コースでのレース</u>を実施予定【22年度関連予算を計上】</li> </ul>

### 3 これまでに創出されたもの（継続的に実施している事業を含む）（43事業）

No.	取組名	所管課	開始時期	選定理由	内容
1	国・県・市災害対策連絡協議会の設置	危機管理課	19年度	先駆 独自	全国に先駆け、災害対応力向上のための国、県、市の <u>連携組織</u> の設置と合同訓練等 <u>具体的な取組</u> の実施
2	ネットワーク型コンパクトシティ構想の創出	政策審議室	20年度	独自	望ましい都市空間の姿として、本市の特性を活かした「 <u>ネットワーク型コンパクトシティ</u> 」を創出し、掲げた。
3	宇都宮大学での「実践・宇都宮まちづくり」講座及び上下水道関連事業講義の実施	政策審議室 (市政研究センター) 企業総務課	20年度	先駆 独自	全国の市町村で初めて、 <u>国立大学法人</u> において、 <u>市町村職員が独自に講義</u> を実施
4	政策特集の作成	広報広聴課	15年度	独自	政策や方針を決定する前の政策課題情報などを <u>広報紙</u> に掲載し、添付ハガキ等により、 <u>市民の意見や提案をいただく</u> 独自の取組を実施（年4回）
5	あいさつ運動の展開	生活安心課	19年度	独自	本市独自の <u>運動</u> を展開
6	消費生活相談窓口の常時開設	生活安心課	19年度	先駆	全国で先駆的に、 <u>年末年始を除く全ての日</u> において <u>相談窓口</u> を開設
7	グリーンアンドレッドリボン運動	生活安心課	18年度	独自	本市独自の <u>飲酒運転根絶対策</u> を展開
8	「宇都宮市配偶者からの暴力対策基本計画」の策定	男女共同参画課	20年度	独自 先駆	DVを社会的な問題として捉え、全国に先駆けた取組を展開すべく、 <u>中核市初の基本計画</u> を策定 ・計画策定にあたって <u>全国の市町村で初のDV被害者アンケート</u> を実施
9	「保健福祉部人材育成計画」に基づく計画的な人材育成	保健福祉総務課	17年度	独自	市民サービスの向上に直結する「保健福祉行政関連の資格職の育成」を重視し、 <u>全国の中核市に先駆けて保健福祉分野の人材育成計画</u> を策定（20年度見直し）
10	みやシニア活動センターの設置・運営	高齢福祉課	20年度	先駆	団塊シニア世代の経験や知識を地域に生かすため、地域活動や再就職などの生活設計のアドバイスを行う <u>総合相談センター</u> を中核市で初めて、 <u>設置・運営</u>
11	食品安全条例の制定	保健所生活衛生課	19年度	独自 先駆	食品の安全を確保するため、食品の <u>自主回収の届出の義務付け</u> や <u>自主衛生管理の認証</u> などを盛り込んだ条例を、 <u>中核市で唯一制定</u>
12	総合的な青少年自立支援対策の推進	子ども未来課	20年度	先駆	全国に先駆けて、「 <u>青少年自立支援プラン</u> 」を策定 ・ <u>中核市初の自立支援センター</u> を設置 ・総合相談窓口や自立支援ネットワーク会議等、具体的な支援対策を推進

13	「宇都宮市環境協定」の推進	環境保全課	20年度	先駆	全国でも先駆的な、 <u>全7公害防止と地球温暖化対策を盛り込んだ、市と企業間の協定書を策定し</u> 、現在34社と締結。
14	みんなでごみのないきれいなまちをつくる条例の制定	廃棄物対策課	20年度	先駆	いわゆる「ごみ屋敷」について、中核市では先駆的な、 <u>実効性のある措置命令を盛り込んだ条例を制定</u>
15	UJIターン起業促進補助金	産業政策課	20年度	先駆	市外からのUJIターンによる新規起業者を対象に、事業・生活拠点に係る経費、法人設立経費を補助 ・ <u>生活拠点も含めた総合的な財政支援は</u> 、全国でも先駆的な取組
16	宇都宮版CSRの構築	商工振興課	20年度	独自	企業と市民、行政の協働によるまちづくりを促す、 <u>本市独自の制度を構築</u>
17	おもてなし運動の推進	観光交流課	17年度	独自	<u>本市独自の運動を展開</u>
18	競輪場におけるファミリー型レストランの設置	公営事業所	21年度	独自先駆	競輪のイメージアップと競輪場の多目的利用を図る一施策として、競輪場内に、来場者のみならず、隣接する <u>公園利用者等一般者誰もが無料入場でき、競輪観戦もできるファミリー型レストランを設置</u> ・全国の競輪場では初の試み
19	道路見える化計画の策定	土木管理課	19年度	先駆	<u>全国の市町村で初めて策定</u>
20	魅力ある都市景観づくり推進活動費交付金	都市計画課	21年度	独自先駆	市民の自主的な景観向上の取組を促進するため、活動費を支援対象とするなど <u>本市独自の交付金制度を創設</u>
21	組合施行による市街地再開発事業の推進	都市再開発課	昭和61年度	トップ	都市基盤向上のため促進してきた、 <u>組合施行による市街地再開発事業の実施及び完了地区数</u> が、中核市で最多(7地区)
22	建築物耐震改修促進計画の策定	建築指導課	19年度	先駆	<u>中核市で一番早く策定</u>
23	水道料金等の収納率	サービスセンター	20年度	トップ	<u>水道料金と下水道使用料の現年度収納率が中核市で第1位</u> (20年度実績) 【水道料金】 98.47% 【下水道使用料】 97.67%
24	水道施設におけるクリーンエネルギーの導入	水道建設課	19年度	先駆	<u>水道施設の機能・特徴を活かしたクリーンエネルギーを</u> 、中核市の水道事業体で初めて導入 ( <u>太陽光発電設備、小水力発電設備の両方ともに初めて導入</u> )
25	水道事業における環境負荷の低減	水道建設課	20年度	トップ	環境負荷の低減を評価する指標である「 <u>配水量1m<sup>3</sup>あたりCO<sub>2</sub>排出量</u> 」が中核市水道事業体で1番少ない (H21.11.1現在)

26	安全で良質な水への取組	配水管理センター	20年度	先駆	<p>松田新田浄水場において、安全で均質な水道水を製造するため、「ISO9001」を、給水人口25万人以上の水道事業者では、全国で初めて取得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水道水の水質検査における高い技術力と精度を保証する「水道GLP」と「ISO9001」の両方取得は、中核市で最初</li> </ul>
27	小中一貫教育と地域学校園	教育企画課	20年度	独自	<p>小中9年間を一体的にとらえた小中一貫教育を、中学校を核とする地域学校園(※)において展開するとともに、宇都宮独自の教科である「会話科」を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成22年度より6モデル地域学校園で実施後、24年度より全市実施予定【22年度関連予算を計上】</li> </ul> <p>※本市25中学校を核として、小中学校の児童生徒交流や教職員連携、地域教育資源を活用した教育ネットワークを構築するもの</p>
28	宮っ子の誓いの制定	教育企画課	19年度	独自	<p>本市独自の<u>子どもの行動規範</u>を制定し、活用した人づくりを推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「宮っ子の誓い」カードを、市内の全小中学生に配付、「宮っ子の誓い大使」を認定し普及啓発を推進</li> <li>「誓い」をテーマに、「人間力向上フォーラム」を開催</li> </ul>
29	学校物品有効活用システムへのポイント制導入	学校管理課	20年度	先駆	<p>京都市に次ぎ、学校物品有効活用システムを使用し、<u>学校間の物品の貸借や譲り受け</u>を実施。ポイントを付与し、学校の配当予算に還元できる制度を導入</p>
30	小・中学校全校及び給食センターへの栄養職員の配置	学校健康課	20年度	先駆	<p>全国で先駆的に、<u>小中学校全校等への栄養職員の配置</u>を実施(全校配置は中核市で2番目、給食センターを含む中核市で1番)</p>
31	学校給食における全小・中学校での食物アレルギー対応	学校健康課	17年度	先駆	<p>全国に先駆けて「<u>学校給食における食物アレルギー対応マニュアル</u>」を作成。全児童生徒を対象とした、除去食・代替食等の食物アレルギー対策を実施</p>
32	学校給食による地産地消・食育の推進	学校健康課	15年度	先駆	<p><b>【学校給食における地産地消の推進】</b> 中央卸売市場等と連携し、本市農産物を生産者の情報とともに学校へ納入するシステム「<u>うつのみや菜ハイウェイシステム</u>」を市独自で構築。地域の生産者から購入する産直方式と併用した取組を先駆的に実施</p> <p><b>【生野菜・果物給食の実施】</b> 専用シンク、調理済み食品保管用冷蔵庫を全小中学校に設置し、全国でも先駆的に、<u>食育の観点から生野菜給食</u>を実施</p>

33	親力向上支援プランに基づく 家庭教育事業の推進	生涯学習課	20年度	独自 先駆	<p>本市独自の「親力向上」という視点により、<u>全国に先駆けた計画を平成19年度に策定</u>。親学向上支援として、総合的な取組を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親学出前講座の実施 (平成21年度は、25のプログラムを提示し、83件の申込み、3,680名の参加見込み)</li> <li>・市PTA連合会、企業等との連携など、社会全体で親学向上を支援する体制づくりを推進</li> <li>・親学情報誌「KODOMOLOOK」を、乳幼児・小学校低学年の児童を持つ保護者対象に年4回発行。内1回は家庭教育支援団体等との協働で作成</li> <li>・ファザーリングの推進</li> <li>・22年度は、家庭教育支援センター機能を整備予定【22年度関連予算を計上】</li> </ul>
34	宮っ子ステーション事業の推進	生涯学習課	19年度	独自	<p>学校を拠点として地域全体で子どもを育むため、本市独自に、<u>各地域に地域住民等が主体となった運営体制を整備し</u>、地域や学校の特性・状況に柔軟に対応した様々な取組を実施</p>
35	魅力ある学校づくり地域協議会の設置・運営	生涯学習課 学校教育課	18年度	独自	<p>学校教育の充実や児童生徒の健全育成のみならず、家庭や地域の教育力の向上をめざす、本市独自の運営体制を構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成20年度、<u>市内全小中学校において</u>、学校・家庭・地域・企業が一体となって「地域の学校づくり」に取り組む<u>地域協議会を設立</u> (全小中学校における同様な取組は、宇都宮市と三鷹市のみ)</li> <li>・平成21年度は、地域協議会が独自に運営資金を確保できる仕組みづくりに役立つよう、「学校応援基金ガイドライン」を作成、全地域協議会へ配布</li> </ul>
36	子どもの読書促進	生涯学習課 (図書館) 学校教育課	18年度	独自 トップ	<p>第2次子ども読書活動推進計画、みや図書館サービスプランに基づき、本市独自の<u>地域ぐるみの読書活動を展開</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館司書の全校配置</li> <li>・中核市トップクラスの子どもの読書環境の整備(図書館と全小中学校を結ぶ搬送ネットワーク等) ⇒1か月あたり読書量: 小学生24.2冊、中学生7.1冊(全国平均の約2倍、中核市トップクラス) ⇒調べ学習用資料の学校への貸出: 約29,000冊(中核市トップクラス) ⇒学校図書室と図書館の合計貸出数: 5,001,917冊(中核市トップクラス) ⇒図書館の児童蔵書数: 461,507冊(中核市1位)</li> </ul>

37	視聴覚ライブラリーの運営と市民団体の映画会活動	生涯学習課 (視聴覚ライブラリー)	15年度	トップ	講習会等の実施回数や、16ミリフィルム貸出本数、市民団体による映画会の開催など、全国でもトップクラスの <u>活発な活動を展開</u> 【全国1位の項目(平成20年度調査)】 ・講習会等の実施回数(527回/年) ・16ミリフィルムの貸出本数(1,699本/年) ・Google検索でホームページ検索1位(3年以上継続中) 【全国1位(推計)(平成20年度調査)】 ・主催映画会の実施回数(96回/年) ・「映写ボランティアの会」が開催する映画会(481回/年)
38	うつのみや子ども賞	生涯学習課 (図書館)	昭和59年度	先駆	全国の市町村で初めて、 <u>児童自身が優れた図書を選定する事業を実施</u>
39	妖精によるまちづくりの推進	文化課	15年度	トップ	妖精ミュージアムを拠点に、妖精資料を活用した活動を展開 ・ <u>公立展示施設としての妖精資料の収蔵数は全国でトップ</u>
40	エスペール文化振興事業	文化課	13年度	独自	本市独自の制度として、文化芸術活動が顕著な本市ゆかりの若者に賞を授与
41	うつのみや百人一首市民大会	文化課	8年度	独自	平成8年の市制100周年を機に本市ゆかりの百人一首市民大会を開催 ・ <u>一般市民を対象とした大会としては、全国最大規模</u>
42	冒険活動教室の実施	スポーツ振興課	8年度	独自 トップ	全小中学校を対象に、きめ細かな支援体制や、大学連携による教育効果検証などに裏打ちされた、 <u>中核市トップレベルの自然体験活動を実施</u> ・職員による学校のねらいに応じたプログラムづくりや、グループごとの活動支援を実施 ・「リーダーシップ」「対外関係スキル」面などで効果が実証されている
43	特別支援教育基本計画の策定	教育センター	19年度	先駆	中核市で一番早く <u>特別支援教育に関する基本計画を策定</u> ・ <u>専任担当者の配置を含む「特別支援教室」の設置は、先駆的でありトップクラスの取組</u>